

◆◇私はいま、日本の在宅ケアのやさしさ、すばらしさを日々感じています。◆

という書き出しで始まる村上紀美子さんの投稿を4月24日にこのフェイスブックでお伝えしたとき、紀美子さんは、既に、旅立ってしまっておられたのでした。

でも、パートナーと2人のご子息をしばらくそっとしておいて差し上げたくて、そのことには触れずにいました。

最愛の方が、以下のようにフェイスブックにアップされましたので、コピペしますね。

写真は大学院に近いお店で、院生や親しい方と一緒に紀美子さん(左端)です。

————*★*————*

お世話になった皆様

以前より、本人の投稿でお伝えしていました通り、在宅療養中だった妻 紀美子は 令和5年4月24日午後 共に暮らし、大好きだった家で静かに眠るように七十歳の生涯の幕を下ろしました。

活発で元気一杯、コロナ禍明けの昨年9月には早速海外へ国内各地へと出かけ、正月には子供たちに得意の料理を披露していたのに。

しかし発覚した癌との厳しい闘病の3ヶ月も若い訪問医、看護師さん達に声をかけ、最後まで明るく過ごしました。

それを支えて頂いたのは皆様です。電話やお見舞い、お花など励ましの品々も頂きました。狭い家なので人数調整させて頂き、面会叶わなかった方ごめんなさい。又、急な展開と小生の慣れぬ看病の混乱もあり、せっかくの皆様のご好意への対応が十分ではなかったと思いますがご容赦ください、ありがとうございました。

仕事で一緒させて頂いた方の何人かから「はっきりと意見を言われましたが、深い思いやりと真実に迫る言葉なのでいつも背中を押されました」との主旨のお言葉を頂きましたが、47年間連れ添った私も同じ思いです。

失ったものがあまりに大きく茫然としていますが、幸い皆様のお力を借りて多くの記事や写真、動画を残しています。それらを亡妻と一緒に体験しながら元気を取り戻せるよう頑張ります。

長年にわたるご親交ならびに数々のお見舞いと励まし、誠にありがとうございました。

略儀ながら書状をもってご挨拶申し上げます。

令和5年4月30日

喪主 村上 丈示 外 親族一同

